

授 業 科 目 名		授 業 時 間
環境とリスクマネジメント		3
担 当 講 師 名	所 属	
津村 守	津村コンサルタンツ事務所	
<p>授業の目的</p> <p>リスクとリスクマネジメントを知る。環境保全・安全管理のリスク管理手法を理解し、化学物質のリスク計算、リスクマネジメント及びリスクアセスメント並びにリスクコミュニケーションの違い、社会学・環境工学として視点からリスクマネジメントの研究の重要性を理解する。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>リスクマネジメントの歴史と重要性、リスクの計算方法、リスクアセスメントとリスクマネジメントの方法、管理者に求められるリスクコミュニケーションの実際、労働安全衛生マネジメントシステムで関連する内容について講義する。 なお、この科目は「実務家教員や実務家による授業」に該当します。</p>		
<p>受講生の達成目標</p> <p>管理者としてリスクマネジメントの重要性を説明できること。リスクの抽出、評価、管理の手法とその重要性を認識し、リスクアセスメントを実施できること。組織として、ステークホルダー、地域とのコミュニケーション及び労働安全衛生マネジメントシステムのリスクアセスメントの要点について説明できる。</p>		
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>講義内容に沿って、演習、レポート、小テストなどを課し、総合的な達成度の評価を行う。 各種課題、レポートなどを総合評価し、60%以上の達成度で合格とする。</p>		
<p>教科書・参考書</p> <p>教科書は用いず、配付資料等により授業を進める。 参考書：「よくわかるリスクアセスメント」向殿政男著（中災防ブックス）；「暮らしと環境科学」日本化学会編（東京化学同人）；「環境リスク学」中西準子著（日本評論社）；「演習環境リスクを計算する」中西準子他著（岩波書店）；「環境リスク解析入門」吉田喜久雄・中西準子著（東京図書）；「化学環境学」御園生誠著（裳華房）；日本産業規格「Q 45001 労働安全衛生マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引」；「SDGs」南 博, 稲場 雅紀著（岩波書店）</p>		